

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2025年度)

専門分野区分	社会科学		科目名	技術者のための現代国際事情				科目コード	SL501A2	
配当期	後期		授業実施形態	通常				単位数	2 単位	
担当教員名	浅井 登紀子		履修グループ	選択				授業方法	講義	
実務経験の内容	青年海外協力隊としてバングラデシュ(約3か月間)・スリランカ(約1年4か月間)で活動経験あり。現在は大学院博士課程に在籍し、スリランカをフィールドに人類学的な研究を行っている。									
学習一般目標	本授業では、主に南アジア地域・スリランカの文化・社会について学びながら、グローバル化した現代社会における諸問題やそうした状況下での人々の暮らしについて理解を深めると同時に、国際社会と私たちの社会とのつながりについて考えていきます。本授業を通して、異なる文化を持つ人々に対する理解と想像力、多面的な考え方を身に着けることを目標とします。									
授業の概要および学習上の助言	本授業では南アジア地域に焦点を当て、国際事情を理解する上で重要な様々なトピックについて、担当者の現地でのフィールドワークの経験も紹介しながら講義を行います。授業での積極的な質問や発言を歓迎します。									
教科書および参考書	特に指定しないが、必要に応じて参考文献等を紹介する。									
履修に必要な予備知識や技能	特になし。									
使用機器	特になし。									
使用ソフト	特になし。									
学習到達目標	学部DP(番号表記)		学生が到達すべき行動目標							
	1		現代国際事情に関する基礎知識を習得する。							
	2		国際社会と自らの社会のつながりについて考えることができる。							
	2		異なる文化を持つ人々への理解を深め、その背景に想像力を働かせることができる。							
	2/4		自らの意見を論理的に説明し、主張できる。							
	3/5		授業に積極的に参加し、意欲的に発言することができる。							
達成度評価	評価方法		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
	学部DP	1.知識・理解			20					20
		2.思考・判断			20					20
		3.態度							40	40
		4.技能・表現								
		5.関心・意欲							20	20
	総合評価割合				40				60	100
評価の要点										
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試験										

小テスト	
レポート	講義内容に関連するレポート課題の提出を求める。これは成績評価の4割を占める。
成果発表(口頭・実技)	
作品	
ポートフォリオ	
その他	出席・受講態度を重視する。これらは成績評価の6割を占める。

授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	講義	特になし。
第2回	異文化を学ぶアプローチー文化人類学とフィールドワーク	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第3回	世界の中の南アジア・南アジアと日本	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第4回	南アジアの社会①宗教と民族	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第5回	南アジアの社会②文化と暮らし	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第6回	南アジアの社会③ジェンダー	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第7回	南アジアと植民地主義①	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第8回	南アジアと植民地主義②	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第9回	民族紛争と人々の暮らし①	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第10回	民族紛争と人々の暮らし②	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第11回	新型コロナウイルスと人々の暮らし	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第12回	南アジアにおける共生	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第13回	まとめ	講義	必要に応じて授業中に提示する。
第14回	課題解決型授業①	遠隔授業	
第15回	課題解決型授業②	遠隔授業	